

④ <sup>やぎか</sup>八坂神社を建て、  
<sup>すがふ、ね</sup>菅布弥神社の<sup>けいだい</sup>境内を広く  
 する。

村内に、腸チフスが  
 流行し、おおぜいの人々  
 が八坂神社に、病気が  
 おさまりますようと、  
 お祈りに行きました。  
 その時、神社をもう少し  
 高い所に移そうという  
 人々の声が多くなり、  
 腸チフスの流行がお  
 さまったあと、<sup>たかやま</sup>館山に  
 神社を移しました。この  
 館山を「<sup>てんのうやま</sup>天王山」  
 というようになりました。



96-1

天王山

金吾の父も腸チフスにかかり、この八坂神社をおがんで腸チフスがなおり  
 ました。それから、金吾の父は、この神社のお役に少しでも  
 立ちたいと思いました。父の思いを知った金吾は、昭和10年8月に、  
 京都の八坂神社をまねて、京都から5人の<sup>みや</sup>宮大工をよびよせ、  
 神社を新しく作り直しました。

また、金吾は、菅布弥神社の境内を広くする工事もしました。



96-2

工事中の菅布弥神社



96-3